



資料4

海外における教育課程設立の課題

～大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部の事例～



2017年9月22日

立命館大学

学園ビジョンと中期計画

- **学園ビジョン**: Creating a Future Beyond Borders
- **中期計画**: R2020計画
 - 前半期(2011年度～2015年度)
 - 後半期(2016年度～2020年度)
- **重点課題**: グローバル・イニシアティブの推進
 - スーパーグローバル大学創成支援事業
 - 海外大学との共同の取組
 - ー大連理工大、JD、DD、キャンパス・アジアなど
- **情報理工学部**におけるグローバル展開:
 - ハノイ工科大IT人材育成、グローバル人材育成推進事業
 - アジア人財、英語基準コース新設(2017年度～)など

大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部 設立目的と意義

- 少子化時代における**優秀な入学者**の確保
- ICT産業における**グローバル人材の需要**への対応
- **日本型高等教育の海外展開**
- 理工系学生の**海外留学の促進**
- 中国、東アジアでの立命館大学の**プレゼンス向上**
- 学内への**波及効果**（グローバル化促進への貢献）
 - －他学部・研究科等への刺激
 - －キャンパスの国際化（多文化環境での共修・交流）

設置に至る経緯(概要)

- ・2009年10月
大連理工大学ソフトウェア学院の羅学院長等関係者が情報理工学部を訪問し構想説明。
- ・2010年3月
大連理工大学欧学長一行が本学を訪問し、川口総長(当時)に構想説明。
- ・2010年9月
大連で実施された情報理工学部と大連理工大学の2学部との共同ワークショップの後、大連理工大学より正式に検討と協力要請有り。
- ・2011年5月
新学部の枠組みについて、基本合意に達した。詳細設計を開始した。
- ・2011年9月
大連理工大学より中国教育部に設置申請書を提出(1回目)。
- ・2012年4月
大連理工大学より中国教育部に設置申請書を提出(2回目)。
- ・2012年9月
大連理工大学開発区キャンパスにてパイロットクラス(30名)を開設。
- ・2012年12月
大連にて、中国教育部の専門家による設置審査会が開催される。
- ・2013年3月 認可。
- ・2014年3月 正式に開設。

設置形態

- **設置形態**： 中国政府の認可による共同運営学部
- **設置場所**： 中国大連市
- **学生定員**： 100名（4年制、将来は300名を想定）
- **学位**：
 - 定員の内4割の40名は、立命館大学情報理工学部
に3年次転入し、立命館大学と大連理工大学
の**ダブルディグリー**を取得（DUDP）
 - ※40名の編入学定員を設定
 - 残りの学生は、大連理工大学の学位を取得

基本コンセプトと特色

アジアに立脚したIT国際教育スタンダードの確立

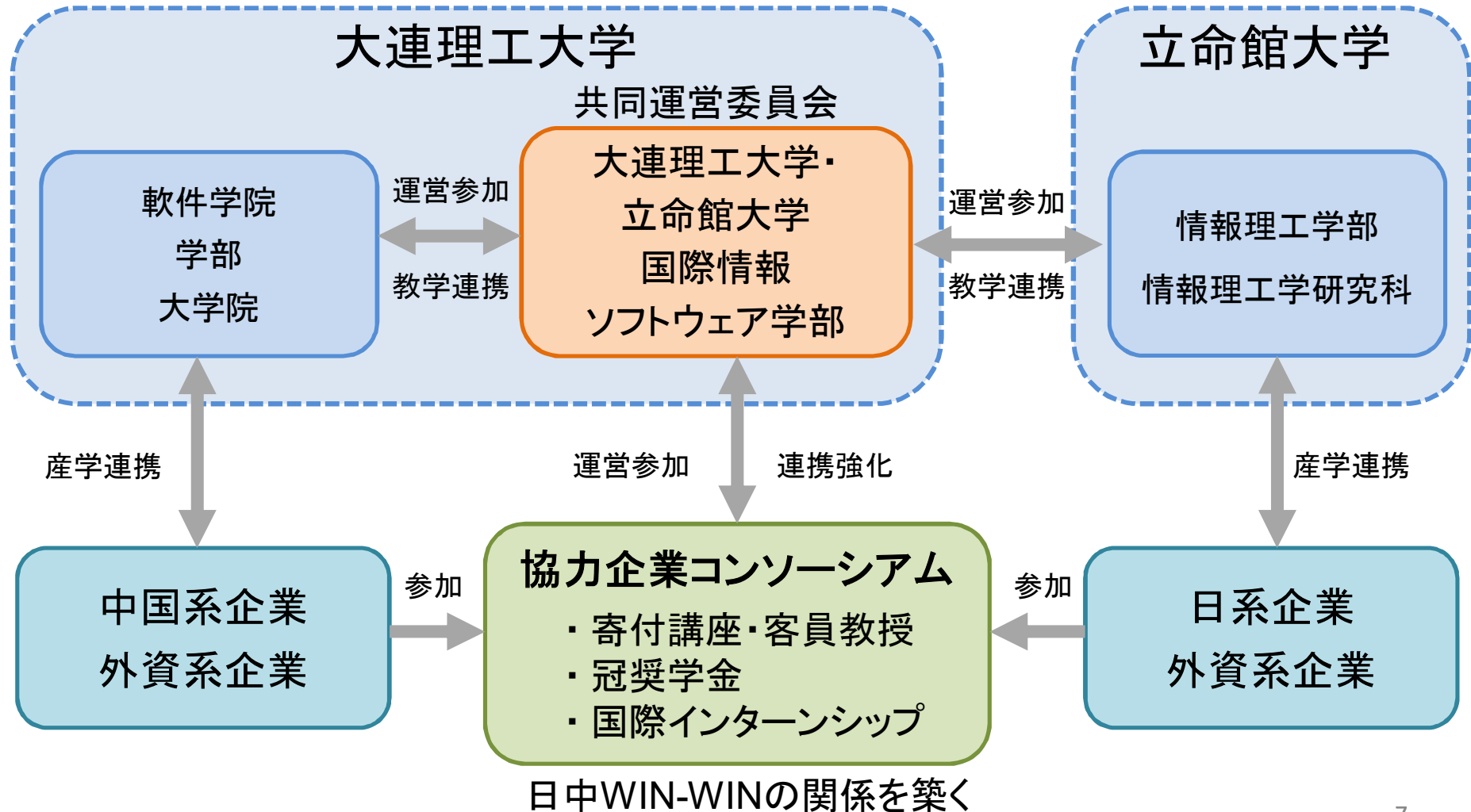
- ・ 基本コンセプト

- IT分野におけるグローバル人材育成のための日本型教育モデルの開発
- 中国東北部を始めとする東アジア地域での教育研究連携拠点の形成
- 日系企業・中国企業と立命館大学・大連理工大学による国際産学連携

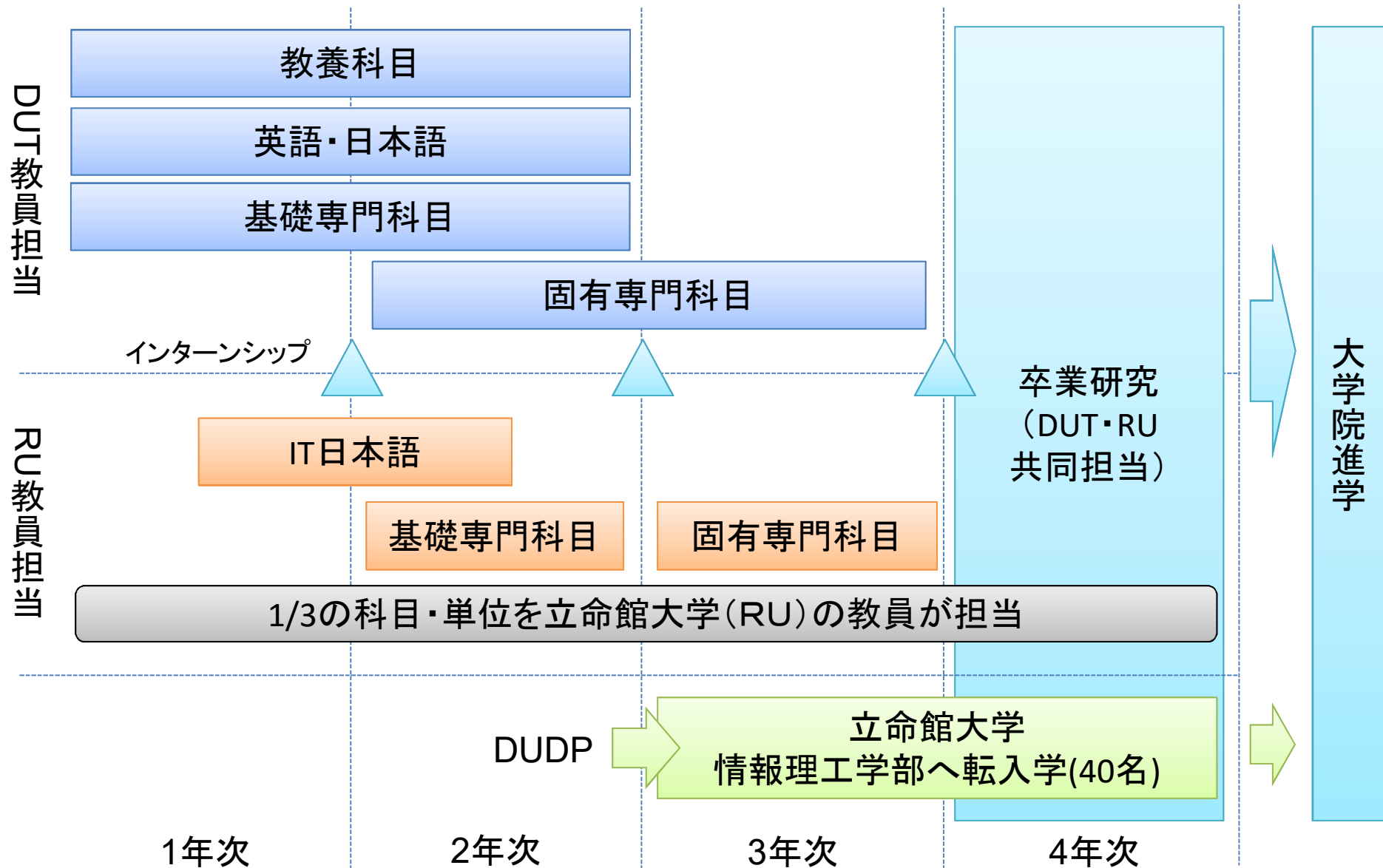
- ・ 特色

- 日中共同で設置する初の国際的な学部
- 講義担当割合:大連理工 2/3 立命館 1/3(但し、専門科目の半分以上は立命館が担う)
- 日本語教育:日本語能力試験N1レベルを目指す
- 専門科目:立命館大学教員が24科目を日本語で講義

国際産学連携による運営スキーム



カリキュラムの概略



現況

- 2014年度 学生数： 99名、4クラス編成（内40名、2016年9月本学転入）
- 2015年度 学生数： 99名、4クラス編成（内32名、2017年9月本学転入）
- 2016年度 学生数： 98名、4クラス編成
- 2017年度 学生数： 2学科 209名、7クラス編成



2014年9月9日1期生入学式



立命館大学で短期研修

将来構想と課題

- **規模拡大**
 - 2学科制へ規模拡大(210名)(2017年より実施済)
ソフトウェア工学科(90名)、デジタルメディア学科(120名)
さらに、2~3年後にIoT分野の新学科を追加、定員300名へ
- **留学生受入**
 - 日本人を始めとする外国人留学生の受け入れ
- **日本型スタイルの卒業研究の現地化**
 - 日本の卒業研究の基本スタイルを維持しながら、中国の進学、就職事情に合致する卒業研究の開発
- **連携強化**
 - 企業との連携、大連の日本人社会との連携(推進中)
 - 卓越大学院構想の海外拠点化と大学間の共同研究の推進
 - 海外キャンパスとしての構想
 - 日本の他大学との連携

立命館大学におけるその他のグローバル展開

■ **アメリカン大学・立命館大学国際連携学科**開設(2018年4月)

アメリカン大学とのジョイント・ディグリー実施

→全学生が2年間ワシントンD.C.で学ぶ

■ **食マネジメント学部** 開設(2018年4月)

ル・コルドン・ブルーとの提携

→グローバル・カリナリーアーツ・アンド・マネジメント・プログラム開設

Advanced Diploma of Culinary Arts and Managementの授与

■ **グローバル教養学部** 設置構想中(2019年4月開設予定)

入学者全員がオーストラリアの大学とのデュアル・ディグリー

→全学生が1年間キャンベラで学ぶ

+オーストラリアの教員が日本に常駐して授業を実施

大学の海外展開における課題

1. 海外キャンパスの設置にかかる設置基準等
 - 海外キャンパスを設置し、教育課程を開設するためには、設置基準を満たす校地・校舎の自己所有等が必要。
→海外協定大学のキャンパスを活用する場合の緩和措置
 - 海外に教育課程を置く場合の定員設定・定員管理
→海外に限定した定員設定・定員管理の柔軟化
2. 海外展開に関する現地情報の収集や助言
 - 海外の法令、高等教育制度・基準・手続、現地ニーズ等
→在外公館や日本関連機関等によるサポートの仕組
3. 海外における日本の魅力発信と日本語教育支援
4. 海外展開の促進策
→海外展開に積極的に取り組む大学への財政支援等